

九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム (略称: QREP) (九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター (QREC) の講義)

担当: 産学連携センター教授 谷川徹 連絡先: tanigawa@qrec.kyushu-u.ac.jp
 問合せ: QREC プログラムマネージャー 山田裕美 連絡先: yamada@qrec.kyushu-u.ac.jp
 住所: 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 産学連携棟I TEL:092-642-4013 FAX:092-642-4015

◆ 概要、目標

九州大学出身で米国シネックス社の創業者・前会長であるロバート・ファン博士の支援による、アントレプレナーシップ (チャレンジ精神等) と国際意識の涵養を目的とした教育プログラム。米国シリコンバレーに1週間滞在し、現地の起業家、研究者、留学生、米国企業で働く方々等、多彩な講師による講義や、企業訪問、スタンフォード大学の学生との交流等を通じて、世界トップ水準の研究やビジネス、また日本とは異なる多彩な価値観に触れ、自らのキャリア形成を考えチャレンジ精神を高める機会を提供するものです。九大学の全学部大学院からの約20名と、協定校である早稲田大学からの数名でメンバーを構成、多様なバックグラウンドを持ったメンバー相互からも刺激を受けるプログラムです。本プログラムは九州大学の正規講義で、QREC 発足前の2006年度より開始、以後毎年実施して9回実施しています。本プログラムは、QREC 設立のきっかけになった重要な教育プログラムです。

◆ 内容

本プログラムは、世界を知らず将来のキャリア形成の選択肢の広さに気づいていない日本の学生に対して、シリコンバレーというイノベーションの最前線を体感させ、自らの可能性に気づきまた自己の夢実現にチャレンジするきっかけを与えるものです。ベンチャービジネス起業を勧めることが目的ではなく、チャレンジすることの重要性に気づかせ、意欲を喚起する事が目的です。事前講義(2回、オリエンテーションと英語によるディベート演習)、現地プログラム(1週間、米国シリコンバレーにて実施、21-24 コマの講義と意見交換、パネルディスカッション等実施)、総括講義(福岡でのオープンセミナーと成果報告会)により構成されています。参加者は公募しレポートと面接にて選考しています。1-2月の事前講義実施から3月下旬の総括講義までの約2ヶ月間で、講義やワークショップ、フィールドスタディで延約50時間費やし、2単位を付与します。日本の文化とは180度異なるイノベーションのメッカ、シリコンバレーで、生き生きと活躍する様々な分野のチャレンジャーのロールモデルに数多く触れさせることで、学生の意識変革、モチベーションの向上を狙っています。また約25-26人の学生は数グループに分かれ、グループ毎に社会に提案すべきビジネスプランを考えて、2ヶ月間の間にブラッシュアップして発表することを求められます。2ヶ月間、特にシリコンバレーでの1週間、大学も専攻もまた年齢も異なる学生達は、濃密な時間を共有し多くの刺激と気づきを得ることになります。

<授業シラバス> 全学教育科目(総合科目)/大学院共通教育科目
http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/search/preview_new.php?code=N1490739512

第9回(2013年度)九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシッププログラム現地スケジュール(2014/2/23現在)



◆ 効果(結果)

QREP を通して、学生は自らの夢実現のために努力し行動することの重要性に気づき、また日本に留まらず世界の場に挑戦する勇気を得ます。学生の成果発表では、「自らの好きなことを仕事にする」、「海外留学を目指す」、「まず一歩を踏み出す勇気をもつ」、「世界で通用すべく自分の市場価値を上げたい」等の決意が述べられています。また帰国後は、海外留学を目指す学生が大幅に増加する他、本当に好きな分野の専攻に変更したり、武者修行すべく他大学の大学院へ進学したり、諦めていた研究者の道に邁進したりするといった、大きな変化があります。このように、参加した学生のチャレンジ精神の醸成、国際的意識向上、大学での学習意欲の向上といった本プログラムの目的は確実に達せられています。また本プログラムを参考に、九州大学内で、国際的視野をもったアグリバイオリダー育成プログラム(ALEP)、工学部向け海外研修(ELEP)等、同様の4つのシリコンバレー研修プログラムが発足したほか、他の大学や佐賀県、大阪市などでも同様のプログラムが開始されています。なお本センターQRECは、このQREPの精神をより広く九州大学の学生に広げべく設置されたもので、QREPは九州大学におけるアントレプレナーシップ教育の起源です。

◆ 今後の展開

10周年を迎える2014年度も、シリコンバレーの新しいトレンドを取り入れプログラムを実施する予定。

QREP

ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム

概要

シリコンバレーで一週間の研修を中心とした教育プログラムです。ロバート・ファン氏の寄付金を基に、2005年度からはじまり、以降毎年3月のシリコンバレー滞在を軸に、学生たちが国際的な意識を向上させながら起業家精神を育むことのできる機会を提供しています。このプログラムは大学正規の授業として、学生への単位認定が認められています。第9回となる2013年度は、九州大学と早稲田大学の学生計26名が参加しました。

目的

社会で競争力のあるタフな人材の育成を目的としています。

- 1人ひとりのアントレプレナーシップ醸成
- 国際的意識向上
- 積極性、主体性向上
- 大学で学び、研究する意義の理解と学習意欲の向上
- 世界トップクラスのビジネス認識

特徴

シリコンバレーを舞台にした 豊かつ総合的なプログラム

- 現地のシリリアルアントレプレナー、ベンチャーキャピタル、大学生、日本人留学生、研究者、米国企業エンジニア、NPO関係者、移民関係者ら、様々な方々からの講義およびディスカッションなどにより、考え方、生き方などを学びます。
- How to do より Why do を意識した。
- Google, Apple, ORACLE, IDEO などの現地企業を訪問し、社員の方との対談を通じてトップレベルのビジネスについて学びます。

現地大学との連携プログラムの充実

- スタンフォード大学のクラスへの参加、ビジネスのプレゼンテーションおよび現地学生とのディスカッション、d.school見学等。

参加メンバーの多様性

- 全学から参加する学生の専攻は経済、教育、デザイン、バイオロジー、情報工学、エネルギーなど。
- 学部1年生から博士課程、社会人を含めた幅広い年齢層でチームを構成しています。
- 早稲田大学の学生（各年5名程度）も参加しています。

サポート体制の充実

- 九州大学の教員、現地オフィススタッフなどによるフルアテンドにより、充実したサポート体制を構築しています。

参加後のつながり

- 参加年度、参加者・講師の壁を越えて継続的に交流。

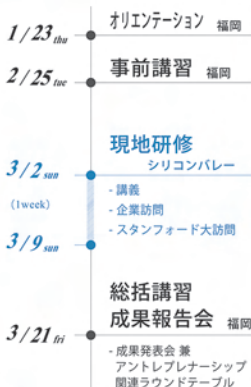


世界で活躍する人々に学び、
自分の未来を切り開く
きっかけを得る。



写真左から: スタンフォード大にて / 現地学生とのディスカッション / 講義 (山本善久 / 国立情報学研究所 / スタンフォード大教授より) / 講義の振り返りワーク / 企業訪問 (IDEO Palo Alto)

スケジュール (2013年度)



参加する以前は失敗したときのことばかり気にしていたが、たくさんの前向きな人やカリフォルニアの風土に触れ、私も前向きでポジティブな考え方をしようと思うようになった。
(経済学部2年生 女性)

女性の自分に研究者は無理と思いついてたが、子育てをしながらがんばる女性、失敗してもまた起業する人と出会い、チャレンジする前から諦めていた自分が恥ずかしくなった。超一流の研究者になるべく努力すると決めた。
(医学系学術修士1年生 女性)

社会で活躍したければ、自ら刺激のある環境に身を置き、常に自分の能力を高めていく努力をすることが必要であると痛感した。
(農学部3年生 男性)

いつかまたシリコンバレーに戻りたいと感じた。QREP後に就職したが、社内の実験的プロジェクトや海外研修など、直感的にやりたかったことはまず手を上げていた。QREPに参加していなければそうならなかったと思う。
(理工学府修士2年生 男性)

※QREP参加から1年後の感想

早稲田大学で学んだ6年間の中でも、最も密度の濃い授業だった。この貴重な体験から、いつかシリコンバレーで働きたいと思うようになった。QREP後に就職するが技術を身につけ、シリコンバレーで働けるだけの力をつけた。
(理工学府修士2年生 男性)

参加者の感想

このプログラムに参加して学んだことは、強い信念を持つこと、その新年を具体化するために一歩を踏み出す勇気を持つことです。
(ビジネススクール1年生 男性)

今回のプログラムは自分の人生において非常に意味深いものとなりました。講師の方々の言葉は一言一言がとても重く、もし全く同じ内容をビデオで見たら本で読んだらしても、同じ感動を受けることは決まらなかったと思う。
(21世紀プログラム1年生 男性)

シリコンバレーの1週間ではいろんな意味でショックを受けて一時自己嫌悪に陥りました。でも自分自身のこと、将来のことをじっくり考え直す機会になりました。こんな機会をくださったことに本当に感謝です。
(工学部4年生 女性)

